

## 郷土摂津

第80号

平成16年12月1日

## いにしえ通信

発行 摂津市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課  
〒566-8555 摂津市三島一丁目1-1

Tel(06)6383-1111 (072)638-0007

ホームページアドレス <http://www.city.settsu.osaka.jp/>摂津市の  
石造文化財藤森神社参詣道  
鳥居・灯籠

第 9 回

## ■藤森神社参詣道鳥居（鳥飼下3丁目）

藤森神社は菅原道真・舎人親王を祭神とし、山城国（伏見）の藤森神社より、舎人親王の分霊をこの地に勧請したと伝えられ、社名も同社にちなんで付けられました。

明治41年に三本松天神社、道祖神社、若宮神社などを合祀する総社となって、今日でも広い境内をもっています。また秋の例祭として残る「練り込み」と呼ばれる宵宮の宮入りは、献灯用の長提灯を立てて、鉦・太鼓と共に伊勢音頭を詠じて境内に入るといふ大祭です。

淀川河川敷に面した鳥居は『摂津名所図会』『淀川兩岸一覽』にも描かれています。明神型の大きな石造鳥居で、左右に銘文を残します。

（右）福祥永貞皆因生土神徳故謹造立之

（左）延亨二乙丑年三月 米屋三郎兵衛安時



←現在の藤森神社  
参詣道鳥居

『淀川兩岸一覽』より模写→

## ■藤森神社参詣道灯籠（鳥飼下3丁目）

『摂津名所図会』には悠々と流れる淀川の堤に街道が通る藤森神社への参詣道の様子が描かれています。その参詣道の鳥居の前に神前型の灯籠があります。竿部の正面と裏面に銘文が見られます。

（正）御神燈（裏）宝暦三癸酉九月岩田氏



宵宮の宮入り  
（昭和22年頃）



藤森神社参詣道灯籠



## ふるさと摂津案内人養成講座 学び・伝えていきませんか！郷土の歴史を。

とき	ところ	内容
1月26日（水）	市役所本館第1会議室	味舌全般の歴史
2月2日（水）	市役所本館第2会議室	織田家と味舌天満宮
2月9日（水）	市役所本館第1会議室	市内の遺跡と明和池遺跡
2月16日（水）	味舌地区歴史散策	味舌地区歴史散策講師 （ふるさと摂津講座）
午後2時～4時。ただし、2月16日は1時～4時		

講師 生涯学習課職員  
定員 20名

◎この養成講座は、郷土の歴史を伝えていただける人材を育成することを目的とします。修了生は、ふるさと「摂津案内人」として認定いたします。

申込みは1月5日（水）から、定員になり次第締切。※電話可 06-6383-1111・072-638-0007 内線 3213  
摂津市教育委員会生涯学習課生涯学習推進係まで

## 石碑・顕彰札の紹介

### 摂津市域の歴史をたずねて

【所在地】摂津市千里丘3丁目10

【設置年度】平成3年度

#### 金剛院不動明王立像

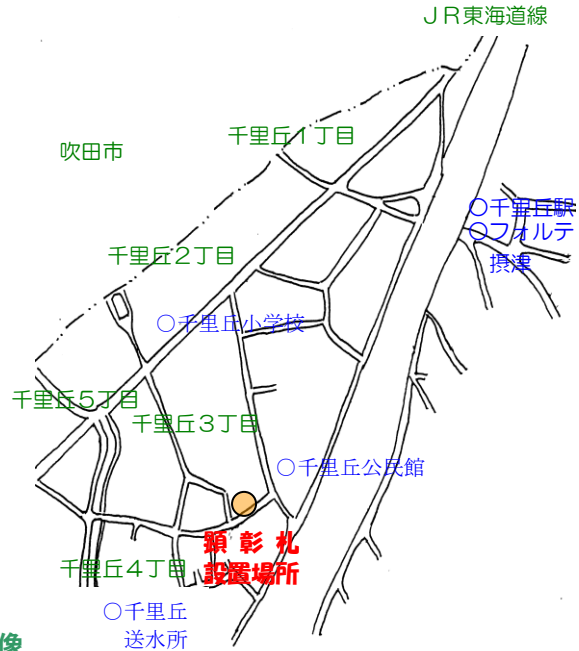
金剛院の護摩堂の本尊である不動明王立像は寄木造りの秀作で平安時代後期の作品とされています。昭和29年8月10日、大阪府指定有形文化財（当時の名称は重要美術品）に指定されています。また平成11年3月に全体的な損傷や脚の部分を、京都市の財団法人美術院により修復されました。



顕彰札写真



金剛院不動明王立像



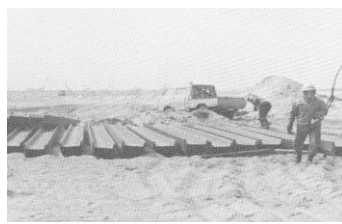
## 第43回 埋もれた摂津市の歴史

### 淀川から土器が出土・柱本遺跡の調査

柱本遺跡は、以前の工事で流域に沿って500mの河岸から遺物が採集されていましたが、具体的な遺構・遺物の包含状況は不明でした。しかし発見された遺物に有機質黒色土層が付着しているなど、包含層の存在を想定できる状況でした。昭和43年の調査のテーマとして、これら包含層の残存状況の確認というものがありませんでした。それに加え今後の河川改修工事にあたり、淀川本流に接する地においておびただしい流入水、厚い砂利層の排土などと対抗しながらの調査が可能なかという点がありました。そこであえて河道に近い箇所に試掘トレンチ（側溝状に掘削していく調査方法）を設定しました。結果調査報告書（高槻市柱本遺跡試掘調査概要・1972・柱本遺跡調査会）では「調査前に危惧されていたような流入水や溢出水については十分遮断が可能であり、河道に近い地点でも調査は十分可能である」と報告されています。具体的な調査方法は鋼矢板を深く打ち込み、その内部を重機により排土し、適宜遺構面に近づき、可能ならば人力掘削で遺構面を掘り、遺物を検出していくというものでした。（つづく）



調査地遠景



搬入された鋼矢板



第1号地点遠景